

Byodo-in Temple
 びょうどういん
平等院 観音堂

宇治市
 鎌倉時代前期
 事業期間：令和6年2月～令和8年3月(予定)

平等院の所在する宇治は、奈良から京都に通じる交通の要衝で、平安時代には山水の景勝として貴族の別荘地となりました。平等院は貴族の別荘であった宇治院を藤原道長が取得し、道長没後、その子頼通が承承七年(1052)に本堂を設けて仏寺とし、平等院と号したことに始まります。翌天喜元年(1053)には鳳凰堂が建立され、以降、平安時代後期を通して伽藍が整備されましたが、建武元年(1336)、鳳凰堂や経堂などわずかな建物を残し戦火で焼失しました。室町時代後期に鳳凰堂が修復され、その後、鳳凰堂の南にあった経堂を移したものが現在の観音堂と伝えられて

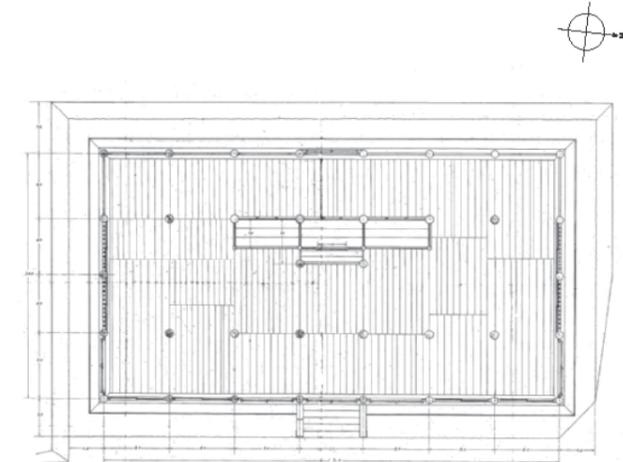
観音堂
 重文
 《修理中》

観音堂は鳳凰堂の北東、宇治川堤防脇に建つ、鎌倉時代前期建立とされている建物です。

桁行七間、梁間四間、寄棟造、本瓦葺で、東側に入口を開いています。内部は一室で、中央に扉付須弥壇とその両脇に脇壇が設けられています。中央須弥壇には、十一面観音が祀られ、扉内側には17世紀に活躍した仏画師の木村徳心による二天図が描かれています(現在は境内の展示収蔵施設で保管)。また、中央須弥壇内部の正面及び両側面は、近世の金地彩色画の貼付壁となっていて、現在の須弥壇廻りは江戸時代に整えられたと考えられます。その後、大正年間の宇治川堤防築造に伴い、大正11年(1922)に解体修理が実施され、地盤面のかさ上げが行われました。

修理の内容

屋根本瓦葺の全面葺替を行い、傷んでいる木部の修理、漆喰壁土塗直し、建具締め直し、鍔金具の修理、張付壁の修理を行います。



観音堂 平面図 (大正修理時作成)

います。江戸時代には寛文年間の阿弥陀堂修理を機に、洛南の名所旧蹟として鳳凰堂の名が全国に広まりました。明治に入り、古社寺保存法の下で明治30年には鳳凰堂が、同35年には観音堂が特別保護建造物に指定されました。その後、文化財保護法制定により重要文化財となりますが、鳳凰堂は昭和26年に国宝に指定されました。鳳凰堂の昭和修理等を契機として管理体制も順次整備され、現在は単立寺院として維持・運営されています。



観音堂 修理前 内観



観音堂 屋根本瓦葺



観音堂 修理前の屋根の状況



観音堂 修理前 外観